学校番号	305

令和３年度　地理・歴史科

教科	地歴科	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	改訂版「詳説世界史Ｂ」　（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）、新世界史研究ノート応用編（啓隆社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。
・各世界の縦軸だけでなく、横のつながりも意識する。

2　学習の到達目標

・世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探求していく態度を身につける。
・世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解する。
・文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培う。
・世界史の資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する力を身につける。
・現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追及を通して認識を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート レポート （主題学習） 振り返りシート	定期考査 ワークシート （主題学習） レポート 報告会での発表内容	定期考査 ワークシート （主題学習） 自作の歴史新聞	定期考査 （主題学習） 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	先史の世界	・人類の進化 ・農耕・牧畜の開始と国家の誕生 ・人類と言語の分化 …人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。	 ○ ○	 ○	○ ○ 	○ 	a:人類の進化や文明の特徴を理解し、人種・民族・語族の概念について関心を持って学習しようしている。 b:人類の進化の過程、農耕・牧畜の開始の意義などを考察し、文章にまとめる。 c:進化図や道具図、洞穴絵画などの図版・写真を適切に活用している。 d:人類の進化、文明の成立、人類と言語の文化に関する基本的な知識を身につけている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	オリエントと地中海世界	・古代オリエント世界: …西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。 ・ギリシア世界: …地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 ・ローマ世界: …都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。			○ ○ ○	○ ○ ○	a:以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・メソポタミア・エジプト古代文明、ペルシア文明の果たした役割、エーゲ文明・ギリシア文明の意義、ローマ世界の特色とキリスト教発展の意義 b:以下の事項を多角的に考察し、文章にまとめる。 ・オリエントの古代文明の現代まで与えている影響の大きさ、ペルシアの文明が、東西諸民族の交流やその文明に影響を与えたこと、ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で広く西アジア一帯に伝来したこと、民主政治がのち世界に影響を与えた影響、ローマ文明と後のヨーロッパ世界との繋がり。 c:以下の資料を適切に活用している。教科書や資料集の図版・写真・地図等 d:以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・西アジア世界の地理的特質、オリエント世界の展開、イラン人王朝の活動とその文明の特質、地中海一帯の地理的特質、ギリシア文明の形成およびその基盤となったポリス世界の特色、ローマの帝国化の過程やローマ法・皇帝理念・キリスト教など	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	アジア・アメリカの古代文明	・インドの古典文明 …南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。 ・東南アジアの諸文明 …東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界の国家形成の過程を理解する。 ・中国の古典文明 …東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷周の成立から秦漢帝国の動向までを理解する。 ・南北アメリカ文明 …先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	○ ○ ○ ○		○ ○	○ ○	a:以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 インダス文明やアーリア人の諸国家の形成・発展、バラモン教やヴァルナ制度・仏教の特徴、東南アジアの諸民族独自の歩みや国家形成およびインド・中国文明の影響との関連、黄河・長江の新石器文明から中華文明形成期の社会や文化の特質、南北アメリカ文明の基層文化、インカ・アステカ両国の特色。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・インダス文明の性格、インド古代王朝の発展と宗教との繋がり、南インドの王朝の動向、ヒンドゥー教とカースト制度、仏教の伝播の意義、東南アジアの諸民族が港市国家を形成・発展させていった過程、文字や皇帝観など中華文明の重要な要素の出現の意義、冊封関係など中国を中心とする東アジア世界の骨格の形成、アメリカ先住民の農耕文明の特色と都市文明の独自性。 c:以下の資料を適切に活用している。教科書や資料集の図版・写真・地図等 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・インダス文明の特色、アーリア人・非アーリア人の王朝の展開、ヒンドゥー教とカースト制度の特徴、南アジアにおける仏教衰退の理由、東南アジア諸民族の独自の発展、黄河・長江文明・殷周時代と春秋戦国時代の社会変動や新思想の形成、秦漢帝国の意義と世界との繋がり、アメリカ先住民の走行文明や南北アメリカ諸文明の特色。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・草原の遊牧民とオアシスの定住民 …内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。 ・北方民族の活動と中国の分裂 …東アジアにおける北方遊牧民族の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。 ・東アジア文化圏の形成 …隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。	○		○ ○ ○	○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・スキタイの影響を受けた匈奴など騎馬遊牧民による国家の活動、北方諸民族の王朝と江南に移った漢族王朝の興亡及びその社会経済文化、隋唐帝国の成立が遊牧民と漢人の融合、内陸アジアでの突厥の成立を背景にしていること、隋唐帝国の役割、隣接諸国の動向 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・匈奴など騎馬遊牧民族の動向、魏晋南北朝時代の社会経済の変化、日本など周辺国家の形成、唐王朝が東アジア文化圏を形成したこと。 c:以下の資料を適切に活用している。 地勢図や領域図・図版・コラム・写真など。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 内陸アジアの乾燥した風土、匈奴など騎馬遊牧民と秦漢帝国のオアシス都市の覇権をめぐる抗争、遊牧民の華北進出と定住化、均田制など新しい制度のしくみ、律令制度や文化、唐王朝が東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したこと、日本や新羅などの国家体制の整備。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	イスラームの形成と発展	・イスラーム世界の形成 …イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。 ・イスラーム世界の発展 …トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させていった過程を理解する。 ・イスラーム化の進展 …神秘主義の影響、インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化など、イスラーム世界の拡大の過程を理解する。 ・イスラーム文明の発展 …イスラーム文明を特質とその影響、学問と文化活動の内容、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	○ ○ ○ ○		○ ○	○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・ムハンマドの活動やイスラーム教の特質、イスラーム帝国の統治システム、イスラーム世界の分裂と変容の過程、ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワーク、インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化とその地域に与えた影響、イスラーム文明の具体的な影響や役割・形成されたネットワークの意義。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・イスラーム教の成立を西アジアの情勢や社会的な背景と関連付けて、アラブ帝国とイスラーム帝国の差異・イスラーム世界の拡大、イスラーム世界の東方への拡大と西方における変容を内陸アジア世界やヨーロッパ世界の動向と関連づけて、経済の発展をカイロの繁栄を軸に、インド・東南アジアなどのイスラーム化の影響、イスラーム世界の統一性が守られてきた理由 c: 以下の資料を適切に活用している。 地図・写真・図版・音楽・ミニアチュールなど d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・イスラームの特質やその形成過程、カリフによる征服活動・イスラーム法に基づくアッバース朝の国家体制、トルコ系民族を軸としたイスラーム世界の諸地域における発展、ムスリムの交易活動やイクター制の内容、諸地域世界のイスラーム化の過程、ムスリム商人や神秘主義教団の果たした役割、融合文明としてのイスラーム文	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

							明。	

前期	ヨーロッパ世界の形成と発展	・西ヨーロッパ世界の成立 …地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ベルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。 ・東ヨーロッパ世界の成立 …ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 …十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。 ・西ヨーロッパの中世文化 …教会と修道院、大学やスコラ哲学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	 ○ ○		○ ○ ○	○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・フランク王国とローマ教皇の提携の意義、ノルマン人などの諸民族侵入の影響、ビザンツ帝国の特色とスラヴじんなど周辺民族の活動、西ヨーロッパの中世都市の発展や封建社会の変容過程、中世西ヨーロッパ諸国の政治・社会の動向、中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・地中海世界の解体をゲルマン人の移動やイスラーム勢力の進出と関連付けて、コンスタンティノープルが経済的に発展した理由や帝国とスラヴ人との関係、封建社会の変容やヨーロッパの拡大を、国王による中央集権化と関連付けて、商業の発展や自治都市の形成を封建社会の衰退と関連付けて、中世ヨーロッパ文化（修道院運動やイスラーム文明の影響など） c: 以下の資料を適切に活用している。 地勢図・領域図・移動図・概念図・写真・図版。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・西ヨーロッパ世界の形成と発展、東ヨーロッパのギリシア的世界の多様性、西ヨーロッパ封建社会の変容、中世都市と商業の発展、諸国の国王による中央集権化の過程、修道院の果たした役割、12 世紀ルネサンスや美術・文学など中世文化。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・トルコ化とイスラーム化の進展 …内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。 ・東アジア諸地域の自立化 …遊牧諸勢力の台頭や東アジア諸地域の勢力交代、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。 ・モンゴルの大帝国 …モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。	○		○ ○ ○	○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動の世界史的影響、中国周辺諸国の変化、契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流、宋代の産業や文化の発展、モンゴル帝国が掌握した内陸アジア全体に及ぶネットワークとその影響、モンゴルの侵攻を乗り越えて中国との交易を続けた日本の動向。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・トルコ民族の内陸アジアにおける台頭をトルキスタンの成立と関連付けて、中国周辺諸国の独自の文化形成・遊牧諸国家の支配体制の特徴・宋の統治体制とその社会や文化の特色を、東アジア文化圏を統合力の変化という視点から、モンゴル冷酷が内陸アジア諸都市の、また元朝が海域のネットワークを支配下に置いた意味を、社会経済的な視点から。 c: 以下の資料を適切に活用している。 地図・写真・図版・領域図・系図など。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・ウイグルの崩壊以降、トルコ系遊牧民が広く内陸アジアに定住し、イスラーム化していったこと、日本や高麗など東アジア周辺諸国の政治勢力の交代や文化の確立、契丹や女真の二重支配体制の仕組み・宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国文化の特色、モンゴルの支配の過程と、その支配の特色、モンゴル人のネットワークとその再編・解体がもたらした諸地域世界への影響。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	アジア諸地域の繁栄	・東アジア世界の動向 …中華帝国を再現した、明朝の動向とともに朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。 ・清代の中国と隣接諸地域 …清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。 ・トルコ・イラン世界の展開 …トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向とその社会や文化の特質を理解する。 ・インド・東南アジア世界の展開 …南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	 ○ ○		○ ○ ○	○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・明朝の経済的繁栄と銀経済の進展・文化活動、清代の中国とチベット・朝鮮など隣接諸地域の動向、オスマン帝国・ティムール朝・サファヴィー朝の領域拡大の過程や興隆、インドにおけるイスラーム支配とヒンドゥー教徒との融和と対立、イスラームの東南アジアへの浸透やヨーロッパ勢力の進出 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・明朝が築き上げた朝貢冊封体制の変化を東アジアの状況と関連付けて、清朝と周辺諸地域との関係の変化を東南アジアの状況やヨーロッパ勢力の活動と関連付けて、中央アジア・西アジアに成立した各イスラーム諸王朝の支配の特色、ムガル帝国の支配の特色やその政策の変化をインドの地方勢力に与えた影響と関連付けて、ポルトガルやスペインの進出と東南アジア交易世界の発展。 c: 以下の資料を適切に活用している。 ・地図・図版・写真など。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・明朝の発展による朝貢世界の確立とその動揺、日本や女真など東アジアの状況の変化、清朝の中国統治や宣教師によってもたらされた文化の特色・その隣接諸地域の動向、イスラーム帝国の強大な皇帝権や官僚制・ヨーロッパ世界との関わり・異民族統治の特色、ムガル帝国の統治システムとイスラーム・ヒンドゥー融合の試み、インド地方政権の台頭や東南アジア交易世界の発展。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	近世ヨーロッパの形成	・ヨーロッパ世界の拡大 …ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 ・ルネサンス …ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。 ・宗教改革 …ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。 ・ヨーロッパ諸国の構想と主権国家体制の形成 …近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。		○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・新航路の開拓事業や征服活動・それに伴うアメリカ先住民社会の変容や商業革命、ルネサンスの背景と影響及び芸術作品、宗教改革の背景と影響・宗派や広がった国家による差異、ヨーロッパ諸国が互いに独立した主権国家として競合しながら国際秩序を形成していく過程、イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争・東ヨーロッパ諸国の台頭。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・蘭・仏・英などヨーロッパ諸国の勢力交替を、「17 世紀の危機」の時代を境界として、ウェストファリア条約の意義や東ヨーロッパの動向を普や露を軸に。 c: 以下の資料を適切に活用している。 地図・図版など。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・大航海時代の探検・征服事業の過程とアメリカ先住民社会の変容、ルネサンスの意義やその具体的な文芸と美術、ルター・カルヴァンによる宗教改革の拡大・イギリスの改革・対抗宗教改革、15 世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を確立していく過程、17 世紀前半の「危機の時代」におけるヨーロッパ諸国の動向	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

前期	近世ヨーロッパ世界の展開	・重商主義と啓蒙専制主義 …17～18 世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 …ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。 ・17～18 世紀のヨーロッパの文化と社会 …17～18 世紀におけるヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解する。		○ ○	○	○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争、東ヨーロッパ諸国の台頭、アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程と三角貿易のもたらした国際的な社会経済の変化、科学革命と啓蒙思想を背景とするヨーロッパの文芸思潮。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・17～18 世紀のヨーロッパ諸国の活発な経済活動と植民地争奪戦争を重商主義と関連付けて、大西洋世界で確立した三角貿易が西ヨーロッパで有力国にもたらした莫大な利益を、産業革命の前提条件である資本の蓄積と関連付けて、17～18 世紀におけるヨーロッパ文化の特色を宮廷文化と市民文化とを対比しながら。 c: 以下の資料を適切に活用している。 地図・図版・王家の系図・啓蒙思想家の著作など。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・議会政治の確立した英・ルイ 14 世時代の仏・普墺の抗争・バルト海の覇権を巡る戦いなど 17～18 世紀におけるヨーロッパ諸国の動向、西ヨーロッパ諸国の経済活動と植民地争奪戦争の状況・その結果としてアメリカ・アフリカを巻き込んだ大西洋世界に近代分業システムが成立したこと、科学革命や国際法・啓蒙思想・バロックやロココの芸術の具体的事例とそれを生み出した背景や社会状況。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

後期	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・産業革命 …イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。 ・アメリカ独立革命 …アメリカ独立革命の経過と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。 ・フランス革命とナポレオン …フランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。		○ ○ ○	○ ○ ○		a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及、共和政の大国を確立したアメリカの独立とその憲法の内容や思想的背景、フランス革命の経済的・思想的背景、ナポレオンの政策と革命の継承点。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・資本主義体制の確立と社会の変容について社会問題・労働問題と関連付けて、アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理を現代社会の諸問題と対比しながら、フランス革命をアメリカ独立革命と対比しながら、ナポレオンの戦争を国民国家の理念をヨーロッパ諸国に広げたことと関連付けて。 c: 以下の資料を適切に活用している。 ・地図・図版・表・独立宣言や人権宣言の抜粋・絵画など。 d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・産業革命が最初に英に起こった理由、繊維部門の技術革新と交通機関の改良、資本主義体制が世界市場に与えた影響、英の北米植民地の状況、独立戦争の経過と合衆国憲法の特徴、フランス革命が起こった社会構造、恐怖政治にいたる革命の進展過程、皇帝ナポレオン誕生の背景やその大陸支配の経過。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

後期	欧米における近代国民国家の発展	・ウィーン体制の成立 …ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 ・ヨーロッパの再編 …クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、露・墺の皇帝主導の近代化を理解する。 ・南北アメリカの発展 …ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。 ・19 世紀欧米の文化 …19 世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。		○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・ウィーン体制の特色とその崩壊過程・社会主義思想の成立と普及、露の南下政策とそれに伴う列強の対立、伊・独の統一の背景や過程、ＬＡ独立後における社会経済状況、アメリカ西部への領土拡大が、独自の考え方や行動様式を育んだこと、19 世紀欧米の文芸思潮の変化、近代諸科学や技術の発展の影響。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・1848 年革命をヨーロッパの「大衆貧困」という社会問題と関連付けて、クリミア戦争以後の国際対立とビスマルク外交に関して第一次世界大戦に関連付けて、伊・独の統一を明治維新と比較しながら、環大西洋革命の視点からヨーロッパ諸国の動向とＬＡの独立を関連付けて、アメリカ先住民や奴隷解放後の黒人への抑圧を現在の人種・民族問題と関連付けて、ロマン主義や自然主義などの文芸思潮を自由主義やナショナリズムの進展と関連付けて、近代大都市文化の成立を現在の都市化と比較しながら。 c: 以下の資料を適切に活用している…地図・絵画・図版など d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・ウィーン体制を崩壊させた諸国の自由主義や民主主義的政治改革の動向、クリミア戦争と露の皇帝主導の近代的改革、ヴィクトリア時代の英の繁栄、仏第二帝政とその崩壊、伊・独の統一とビスマルクによる協調外交、ＬＡ独立の経過、合衆国の領土拡張、南北戦争、ロマン主義・自然主義の文芸作品。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

後期	アジア諸地域の動揺	・西アジアの変容 …西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解する。 ・南アジア・東南アジアの植民地化 …インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。 ・東アジアの激動 …ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	○ ○	○		○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・ヨーロッパ勢力の干渉によるオスマン帝国と西アジア地域の変容。ムガル帝国の解体と東南アジアの植民地化。アヘン・アロー両戦争・太平天国の動乱で清朝の支配が大きく動揺し、近代化への取り組みが始まったこと。清朝の冊封体制の解体と日本の台頭の中で東アジアの国際秩序が再編されていったこと。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・西アジアでイスラーム教の伝統に回帰する動きやアラブ人のナショナリズムの萌芽がみられたことを上からの近代化と比較しながら、インド大反乱の社会的背景やタイの植民地化回避の理由をヨーロッパ勢力の進出と国内情勢の双方の視点から、民衆の結社運動と太平天国の動乱をアヘン戦争後の社会不安と関連付けて、日本の明治維新とその後のヨーロッパ文明の導入による近代化がアジア諸国に与えた影響。 c: 以下の資料を適切に活用している…地図・絵画・図版など d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・オスマン帝国の動揺とタンジマートの挫折、アラブの民族運動、イラン・アフガニスタンの対応、英によるインドの植民地化とインド社会の停滞から発生した大反乱、ヨーロッパ諸国の東南アジアの分割と植民地化、清帝国で洋務運動など近代化への取り組みが始まったこと、日本と清朝の朝鮮をめぐる対立が激化し日清戦争が起こる過程。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

後期	帝国主義とアジアの民族運動	・帝国主義と列強の展開 …帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強の国家・社会の変化を理解する。 ・世界分割と列強対立 …帝国主義時代の欧米列強による世界分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。 ・アジア諸国の改革と民族運動 …欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	○	○ ○		○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・欧米列強で軍事力の強化が図られる一方、労働運動が高まりを見せるなど国内緊張が高まっていったこと。欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げた結果、列強の二極分化が進み、第一次世界大戦に繋がる危機が高まっていったこと。帝国主義列強の侵略にさらされたアジア諸国における民族運動の形成と日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったこと。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・19 世紀後半から欧米で進展した第２次産業革命と各国の帝国主義の動きを関連付けて。経済力と軍事力を背景とする欧米列強支配による世界の一体化が各地の社会の変容に与えた影響。列強の植民地支配を受けたアジア諸地域で民族意識が覚醒し、解放独立をめざすナショナリズム運動が展開されていったことを現在の国際状況や問題と関連付けて。 c: 以下の資料を適切に活用している…地図・絵画・図版など d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・帝国主義の特質と帝国主義時代における欧米列国の国内問題。欧米列強のアジア・アフリカ・太平洋地域・ラテンアメリカにおける植民地獲得や勢力圏拡大の競争。列強の二極分化の過程とバルカン半島をめぐる危機の高まり。中国分割の危機と辛亥革命、インド・東南アジア・西アジアにおける民族運動の形成、日露戦争や韓国併合にみられる近代日本の台頭。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

後期	二つの世界大戦	・第一次世界大戦とロシア革命 …第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20 世紀の変動の機転となったことを理解する。 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 …国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 …中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 …世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から国際的な緊張が高まる時代を理解する。 ・第二次世界大戦 …第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。	○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	a: 以下の事項を関心を持って学び追及しようとしている。 ・第一次大戦勃発の経緯・戦時外交と総力戦の性格。ロシア革命の進展。戦間期の国際協調と平和への取り組みが実を結ばなかった理由。アジア諸民族の民族運動。伊独日のファシズムの特徴と勢力拡張の過程。 b: 以下の事項を多角的に考察し、文章や表にまとめる。 ・第一次大戦の原因や性格についてこれまでの戦争との違い。ロシア革命の世界史的な意義と影響。ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもたらした緊張関係や矛盾。干渉国と民族運動の高揚の関係。ファシズムを 20 世紀における大衆社会の出現と関連付けて。第二次大戦の複合的な性格を戦後の国際社会の方向性と関連付けて。 c: 以下の資料を適切に活用している…地図・写真・図版・ビデオ映像など d: 以下の事項の基本的な知識を身につけている。 ・第一次大戦の帝国主義諸国間の覇権争いとしての性格・経過と影響。ロシア革命の展開とソ連邦の成立過程。ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点とアメリカの繁栄、ソ連の社会主義建設という欧米諸国の動向。中国・インドの民族運動の高揚、トルコ革命などアジアで展開された民族運動。世界恐慌の影響と欧米諸国の対応、ファシズム諸国の構成やソ連邦の動向。第二次大戦における戦場の広域化、ホロコーストや核兵器の使用といった残虐行為などの戦争の惨禍。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

後期	冷戦と第三世界の独立	・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 …第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する。 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 …朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪解け」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り…戦後の 20 年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。米ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。 ・石油危機と世界経済の再編 …ドル=ショック、オイル=ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。	

後期	現在の世界	・社会主義世界の変容とグローバル化 …東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、1990 年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。 ・途上国の民主化と独裁政権の動揺 …途上国の民主化の進展と、アジア社会主義国家の変容を理解する。 ・地域紛争の激化と深刻化する貧困 …世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。 ・現代文明の諸特徴 …科学技術の発達と現代文明の抱える危機、現代思想や文化の特徴について理解する。	 ○ ○

							しい模索。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。